

主に花穂、果房に発生する病害

④灰色かび病



開花前の花穂に感染発病すると、花や果梗、穂軸が腐敗し、結実不良となる。幼果では花冠や花糸が付着した部分から褐変する。熟果では裂果部分に感染・発病し腐敗する。多湿条件で発生しやすい。

⑤晩腐病



葉や幼果にも発病する場合があるが、成熟期の発病は果実を腐敗させるため、被害が大きい。病斑上には鮭肉色・粘質な分生子層が形成され、収穫直前に多雨で経過すると急激に発病が広がる。

⑥灰星病



主に着色期以降に認められる。裂果や食害痕などの傷口に発病するものが多い。